

# 山から海へ 人・文化・日常が流れ、溜まり、広がる「つながり」のようなミュージアムロード

## 敷地分析

より生きたミュージアムロードになるために

回遊性の向上が効果的



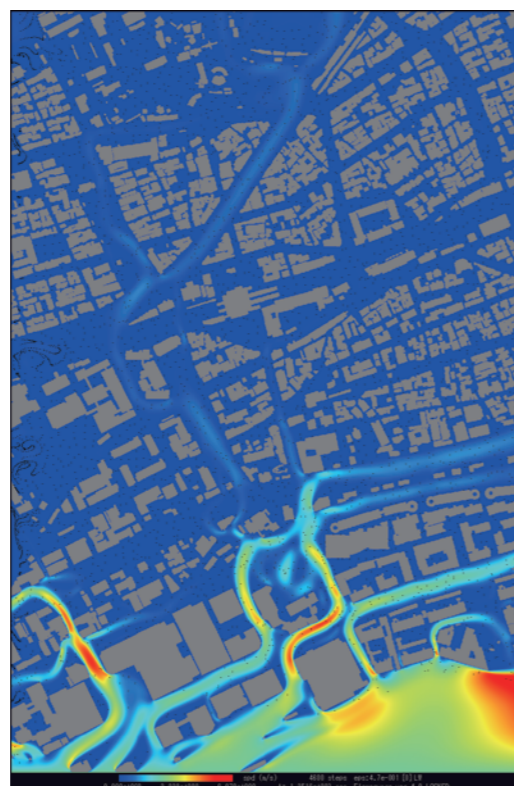
快適性の向上

都市部でヒートアイランド現象の深刻化が問題視されている

→海風の取り込みが有効  
(右図から全体に行き届いていないことがわかる)

→日常的利用の増加  
季節を問わず、人々が歩きやすいロードに

→賑わいの場増加  
より多くの人々がロードに出てくることで、滞留する場が生まれる



2 m/sの南風（夏季の海風）を想定して2次元で計算  
計算に当たっては、Flowsquare (<http://flowsquare.com>)を使用した

## 提案概要

ミュージアムロードに「チューブ」を

「チューブ」が担う、接続機能

### 1, 海風を内陸に引き込む「風の道」

海風を駅や街、王子公園まで届ける  
都市の熱を押し出し、新鮮な空気環境を維持する

### 2, 人の活力を増幅する「流動軸」

歩行者の動きを自然に誘引し、点在するアートや施設を  
一本の線で繋ぐ

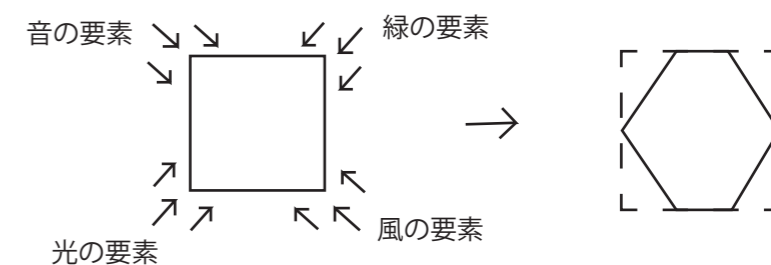
人々の流れと、その上にある滞留の場で心地よい密度感を  
生み出すことで、街に「動的な空気」を生み出す



「チューブ」の構成

六角の輪を中心に展開する

灘駅南につくられた広場や直線に走るロードから着想を得た  
周囲の要素がミュージアムロードに、チューブに影響すると期待を込めて



「道路と歩行空間 +a」の役割を持つ

それぞれの場で、道路と歩行空間の関係に特徴をつけることで、  
ロード全体の回遊性の向上を目指す

山から海へと続くミュージアムロードを、一つの「つながり」として捉える。

自然の地形が生み出す流れのように、この道そのものが人や文化を運ぶダイナミックな流動体となることを構想する。

このロードには、人、車、芸術、経済、日常の営み、旅のひとつとき、そして人々の感情が絶え間なく流れ込む。

そして、川に中洲が生まれるように、道の途中には人が自然と集まり、交流し、新たな文化が芽吹く「滞留」が形成される。

ミュージアムロードは、流れと滞留が繰り返される中で、地域へと文化を広げ、山から海への隔たりを無くし、流れをつなぐ「生きたロード」へと成長していく。

#### 夏季

1. 吸気：海辺の「チューブ」状の建築構造が、安定して吹く海風を効率よく取りこむ。
2. 熱交換（地中熱の利用）：取り込まれた風は地下を通過する際、夏場でも外気より温度が低い地中の冷気と触れ合い、自然に冷やされる。
3. 放出：冷やされた空気は、地上にあるドライエリアやベンチの吹き出し口から街路へと放出され、街全体に天然の冷気をもたらす。

#### 冬季

1. 吸気：外気の冷たい空気（例：5℃）を地下のチューブに取り込む。
2. 熱交換（予熱）：地下を通過する際、外気よりも暖かい地中の熱が空気に伝わる。
3. 放出：外気より数度～十数度暖められた空気（例：12～15℃）が地上に送り出される。

1:3000 断面図

1:3000 平面図

# 「チューブ」詳細

## 1, 北側 (王子公園前～灘駅北側前)

阪急と JR の結節部分、チューブの六角に準えて、六角形の屋根を掛け、移ろいのある空間をつくり出す  
六角形のタイルが柔らかくキャノピー内に光を反射。キャノピーは、お店の前まで伸びており、お店の活動が道に溢れ出す

## 2, 北側 2 (灘駅)

歩行空間を灘駅の上に、地下に車道を設ける 歩行空間には植栽と布の屋根を設置 灘駅上側からミュージアムロード全体を見渡することができる

## 3, 南側 (BB プラザ美術館前～兵庫県立美術館前)

道路を暗渠化し、国道 43 号線と交差させることで幅 30m の大規模歩行者空間を実現した

